

答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 1 北東	基本となる北・東・西・南の四つの方角だけでなく、その中間の方向を指す言葉もあります。北と東の間は「北東」、北と西の間は「北西」、南と東の間は「南東」、南と西の間は「南西」と呼びます。
問2	答え 3 四方位	北・南・東・西の4つの方向を「四方位（しほうい）」といいます。地図では、上が北、下が南、右が東、左が西になるのが基本です。
問3	答え 3 狭い地図の上でも、どんな施設があるか一目でわかるようにするため	地図に建物の名前をすべて文字で書いてしまうと、文字が重なって見にくくなってしまいます。そのため、特定の施設を簡単な形（記号）に置き換えることで、限られたスペースでも情報を正しく伝える工夫がされています。
問4	答え 4 地図記号	地図記号は、建物や土地の様子などの種類を、地図の上の約束ごととして表したものです。これを知っていると、実際にその場所に行かなくても、地図を見るだけでどのような場所なのかをすぐに知ることができます。
問5	答え 1 図書館	図書館は本がたくさんある場所であることから、開いた本の形をした記号が使われています。このように、地図記号はその施設の特徴を表す形になっていることが多いです。
問6	答え 2 図書館	図書館は、市が運営している公共施設の一つです。市民が本を読んだり調べ物をしたりすることで、知識を深められる場所として広く利用されています。映画館やお店などは、主に会社が運営している施設です。
問7	答え 4 公共施設	地域のみんが使うために作られた施設を公共施設といいます。図書館や消防署、市役所などは、住んでいる人全員が便利に利用できるように作られています。
問8	答え 3 実際の建物の形に似せたり、意味がわかるようにする	地図記号は、見た人がすぐに「これは何の施設か」を理解できるように工夫されています。例えば、港（みなと）は船をつなぐ「いかり」の形をまねて作られていたり、田んぼは稲を刈り取ったあとの株（かぶ）の形をあらわしていたりと、意味や形が工夫されているため、一度覚えると地図を読むのが楽しくなります。
問9	答え 4 みんなが利用しやすい駅の近くや人の集まる場所	公共施設は多くの市民が生活を送る中で、必要な時にすぐ利用できるよう、アクセスの良い場所や人が集まりやすい場所に設置されています。
問10	答え 1 地図記号	地図記号は、地図を読みやすくするために、学校や神社、田んぼなどの建物や土地の様子を短い記号であらわしたものです。これを使うことで、実際にその場所へ行かなくても、地図を見るだけでどんな施設があるのかを知ることができます。
問11	答え 3 公共施設	公共施設は、市民みんなで利用するために市が運営している施設のことです。学校や図書館、公民館などが含まれ、市民みんなの大切な財産として、生活を支える役割を担っています。
問12	答え 4 市民がみんなを利用して、生活を豊かにするため	公共施設は、市民が健康に過ごしたり、知識を深めたり、地域の人たちと交流したりするために市がつくっています。これらは誰か一人の持ち物ではなく、市民みんなの財産として、私たちの生活を支えています。
問13	答え 4 港と工場	海に面した平らな場所は、船の出入りに便利な「港」をつくるのに最適です。また、その港で受け取った材料ですぐに製品をつくり、すぐに船で運べるように、港のすぐ隣に「工場」が建てられることが多くあります。
問14	答え 2 東	北を向いて立ったとき、自分の右側は東の方角になります。逆に左側は西、背中側は南にあたります。方位を知ることで、自分がどちらに向かって歩いているかを確認することができます。
問15	答え 2 北	地図には、誰が見ても方角がわかるように「上を北にする」という共通の決まりがあります。このルールのおかげで、地図を使う人全員が同じ方向を北として読み取ることができます。
問16	答え 2 東西南北（とうざいなんぼく）の向きをたしかめるため	方位記号は、地図の上がどちらの方角（基本は北）を指しているかを示す記号です。これを確認することで、地図の中での正しい東西南北の向きを知ることができます。
問17	答え 4 世界中の人が同じように方角を知るため	地図は多くの人を使うものなので、見る人によって方角がバラバラにならないようにルールが決まっています。この約束を守ることで、地図上の場所と実際の方角を正しく合わせるできるようになります。
問18	答え 4 東	一般的な地図では、上が「北」となります。その場合、下は「南」、右は「東」、左は「西」と決まっています。この約束を知っておくと、地図を見たときにどの方向に何があるかを迷わずに読み取ることができます。